

英語科 学習指導案

日時 平成19年11月30日(金) 5校時

学級 2年3組(男18名 女17名 計35名)

授業者 伊勢寛臣

1 単元名 Unit 6 The Story of Silent Night (NEW HORIZON English Course 2)

2 単元について

(1) 教材観

中学校学習指導要領では、外国語科の目標の柱の一つに「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め」ることが設定されている。本単元を通じて、欧米のクリスマスの風習について学ぶ機会を持つことができ、日本人のクリスマスの過ごし方との違いについて考えさせることで、文化の違いやクリスマスが持つ意味について触れさせることができるものとする。

言語材料としては、Starting Out から Dialog においてクリスマスイブのブラウン家の様子や絵美とジュディの会話をういて There is[are]構文を、また Reading for Communication では「きよしこの夜」の誕生秘話をういて動名詞が目的語や主語になる文を取り扱っている。There is[are]構文は、ものまたは人や生物の存在を紹介する。聞き手にとって「(あるとは知らない)新しいもの」が「存在する」ことを表す。また、動名詞は「～すること」という意味を持ち、本単元では目的語や主語としての用法を学習する。There is[are]構文と動名詞という2つの言語材料において相互の関連性は薄いですが、場面設定に工夫が見られ、話の展開が自然なものとなるよう工夫されている。

(2) 生徒観

be 動詞 + (場所) は「存在」を表し、「～ある、いる」などと和訳される。これは1年生の教科書 p.57 "Take Bus No.3. It's over there." で学習する。この文に出てくる be 動詞は「既に述べられたものがある」という意味を表している。本単元で学習する There is[are]構文は新情報となる「もの」が「存在」することを表している。両者の違いが理解できずとまどいを感じたり、あるいは学習が深まらないため、両者を混同してあいまいな理解にとどめてしまう生徒が多い。これら2つの言語材料については具体的な文を提示して比較させ、音声と文字の両面から理解を促したい。

本学級の生徒は、声を出して読む・話すといった活動に抵抗感を示すことが少ないので、多様な口頭練習を積み重ねることで、学習内容の定着が図られるものとする。

(3) 指導観

Starting Out や Dialog は会話の場面として設定されていることから、教師と生徒、あるいは生徒同士のペアワーク等多様な形態によってたくさん発音・対話練習をさせることで、この単元で扱う言語材料に音声を通じて慣れさせ、習得を図りたい。同時に音声を通じて確認したことをノートに書く作業を通じて、言語材料の知識としての定着も図り、確かな学力へと結び付けたい。

また Reading for Communication は、本文中の代名詞や指示語を確認させたり鍵となる文に注目させたりすることで、本文の概要や登場人物の気持ちについて把握させる。この学習活動の後、どう表現すれば登場人物の気持ちが聴いている人に伝わるかをグループで考えさせ、音読発表の質の充実を図りたい。

3 単元の指導目標及び評価計画

(1) 単元の指導目標

コミュニケーションへの関心・意欲・態度

- ・「話すこと」や「読むこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる。

表現の能力

- ・ There is [are]構文を用いて「～に...がある」と表現できる。
- ・ 動名詞を用いて「～すること」と表現することができる。
- ・ 物語を読んで、登場人物の心情などが表れるように音読することができる。

理解の能力

- ・ There is [are]構文を聞いて、その内容を理解できる。
- ・ 動名詞が目的語や主語になる文を聞いて、その内容を理解できる。
- ・ 物語を読んで、登場人物の心情などを読み取ることができる。

言語や文化に対する知識・理解

- ・ クリスマスに関わる欧米と日本の風習の違いについて理解を深める。
- ・ There is [are]構文の形・意味・用法を理解できる。
- ・ 動名詞を目的語や主語とする文の形・意味・用法を理解できる。

(2) 指導計画と評価計画

時	指導内容	観 点 別 評 価 規 準			
		関・意・態	表 現	理 解	言語文化
1	Starting Out There is [are] ~	「話すこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる。	There is [are]を用いて「～に...がある」と表現できる。	There is [are]の文を聞いて、その内容を理解できる。	There is [are]構文（肯定文）の形・意味・用法を理解できる。
2	Dialog Is [are] there ~ ?	「話すこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる。	Is [are] there を用いて、簡単な対話ができる。	Is [are] there の文を聞いて、その内容を理解できる。	There is [are]構文（疑問文と応答）の形・意味・用法を理解できる。
3	Reading for Com. 動名詞が目的語	「読むこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる。			動名詞を目的とする文の形・意味・用法を理解できる。
4 本時			物語を読んで、登場人物の心情などが表れるように音読することができる。	物語を読んで、登場人物の心情などを読み取ることができる。	
5	動名詞が主語	「読むこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる。			動名詞を主語とする文の形・意味・用法を理解できる。

6			物語を読んで、登場人物の心情などが表れるように音読することができる。	物語を読んで、登場人物の心情などを読み取ることができる。
---	--	--	------------------------------------	------------------------------

4 本時の指導

(1) 本時の目標

物語を読んで、登場人物の心情などが表れるように音読することができる。

物語を読んで、登場人物の心情などを読み取ることができる。

「読むこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる。

(2) 本時の評価規準

評価の観点	評価規準	具体の評価規準		C努力を要する生徒への指導の手立て	評価場面(方法)
		A十分満足できる	B概ね満足できる		
関心・意欲・態度	「読むこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる。	登場人物の心情を表現したり、場面の雰囲気伝える読み方をしたりするなど、工夫をして音読練習を行っている。	本文の音読練習を、周囲に聞こえる声で行っている。	机間指導やペアワーク等を通じて、読めない単語の発音を確認させ、単語一つずつ発音させる。	練習や発表の場面(行動観察、発表、自己評価)
表現の能力	物語を読んで、登場人物の心情などが表れるように音読することができる。	適切な語句の発音やイントネーション、リズムで、登場人物の心情が表れるように音読している。	登場人物の心情が表れるように音読している。	ワークシート等で確認した登場人物の心情を振り返らせ、これを意識して読ませる。	練習や発表の場面(行動観察、発表、自己評価)
理解の能力	物語を読んで、登場人物の心情などを読み取ることができる。	登場人物の気持ちについて、ワークシートの質問全部に適切な解答を書き込んでいる。	登場人物の気持ちについて、ワークシートの質問の1つ以上に適切な解答を書き込んでいる。	鍵になる文について、単語の意味を確認させ、その文が何と言っているかを理解させる。	登場人物の気持ちについて発表する場面(発表、ワークシート)

(3)展開

段階	学 習 内 容	学 習 活 動	教師の支援、留意点 評価の観点
導入 10分	1 あいさつ 2 前時の復習	<ul style="list-style-type: none"> ・曜日や日付等を当番の生徒がたずね、それに全員で答える。 ・GアップシートでP.60の基本本文の復習をする。 	<p>質問も答えも、はっきり話すよう促す。</p> <p>前時に宿題として課したものを全体で確認する。</p>
	登場人物の気持ちを意識して読もう		
展開 35分	3 発音の確認 4 本文の内容把握 (1)背景を確認する (2)本文の流れをつかむ (3)心情をつかむ ・個人で ・グループで 5 音読練習 (1)グループ練習 (2)グループ発表 6 まとめの音読 (1)個人 (2)全体	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の後について、全体で本文(P.60)の発音確認をする。 ・教師の質問に答えて、前時に確認した本文の背景について思い出す。(いつ、どこで、誰が、何を) ・本文の概要を読み取る。 教科書リード文「ヨセフが思いついたよいアイディアとは何でしょうか。」に答える。 代名詞が指すものを確認する。 ・キーセンテンスの意味を確認する。 ・登場人物のせりふが「誰のどんな気持ち」を表しているかを考える。 ・グループ毎に、自分たちが考えた登場人物の気持ちを発表する。 ・4(3)で考えた登場人物の気持ちを表現するように音読練習をする。 ・グループ全員で発表する。 ・個人で、登場人物の気持ちを意識しながら読む。 ・学級全体で通して読む。 	<p>ここでは感情表現は意識せず、音の確認に主眼を置く。それぞれの単語の発音を確認しながら、しっかり声を出して読んでいるか。</p> <p>指名して次々に答えさせる。クリスマスに教会ではオルガンを使って賛美歌を歌うのが通例であることを確認する。</p> <p>ワークシートを使用する。隣同士で答えを確認させた後全体にたずねて確認する。</p> <p>キーセンテンスは、日本語の意味をしっかりと確認し、心情の読み取りにつなげる。</p> <p>(1)(2)で確認したことに触れさせながら、登場人物が発したせりふの思いについて考えさせる。 登場人物の心情を読み取ることができたか。</p> <p>各グループにパラグラフを1つずつ割り当て、その中のせりふについて練習させる。</p> <p>せりふのみを発表させる。聞いている生徒には評価用紙を用いて他のグループの評価をさせながら、自分たちが練習していない部分についても「こういう気持ちで読むのだ」というイメージを持たせる。 登場人物の気持ちを意識して音読することができたか。</p>
終結 5分	7 本時の学習の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・評価用紙に本時の学習を振り返って、自己評価をする。 	

「ヨセフが思いついたアイデアとは何でしょう」

こと

下線が引かれた単語は何のこと（誰のこと）を表しているでしょう。
単語の下に、日本語で具体的に書きなさい。

It was just before Christmas.

"The organ stopped working. We need it tomorrow.

What shall we do?" Franz asked.

"I have an idea," Joseph answered.

"I finished writing this Christmas poem a few days ago.

Can you write music for it? We can sing it with a guitar."

"A guitar in church? Can we do that?" Franz asked.

But he went home to write the music.

次の文は何と言っているでしょう。
また、それぞれ「誰のどんな気持ち」を表したセリフでしょう。

What shall we do? 「 」

_____ の (という) 気持ち

We can sing it with a guitar. 「 」

_____ の (という) 気持ち

Can we do that? 「 」

_____ の (という) 気持ち

Evaluation Sheet (評価用紙) p.60

Class _____ No. _____ Name _____

他のグループの発表を聞いて良いところ、改善点を見つけよう。

A～Dで評価し、その理由も一言書こう。

(A:とてもよい B:よい C:がんばろう D:もっとがんばろう)

Group	声の大きさ	登場人物の気持ちを意識しているか
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		

今日の学習を振り返ろう。

(A:とてもできた B:できた C:あまりできなかった D:できなかった)

- ・ p.60の内容は読み取れましたか A B C D
- ・ 登場人物の気持ちを意識して読むことができましたか A B C D
- ・ しっかり声を出して音読練習をしましたか A B C D